

飼料用米「夢あおば」栽培ごよみ

時 期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
作 業	耕起			播種準備			催芽 播種			施肥・代かき 移植			除草剤 散布			穂肥			病虫害防除			収穫			乾燥 調製			土づくり		
生育ステージ (5月下旬移植)																														
水 管 理																														

- ・堆肥の施用
- ・稲わらのすき込み
- ・耕深 15cm 以上の確保

【「夢あおば」品種特性】

- 熟期はコシヒカリより早生
- 乾物収量・粗玄米収量が多い
- 縞葉枯病抵抗性をもつ
- いもち病に強い

品種名	移植日	出穂日	成熟期	稈長 cm	粗玄米重 kg/10a	倒伏 0-5
夢あおば	5月13日	7月27日	9月15日	86	822	0
	6月13日	8月23日	10月14日	101	562	1.7

※農業試験場(宇都宮市)における試験結果(H27)(施肥量 窒素 12kg/10a)

【施肥】

- ・主食用イネの1.5～2倍程度の多肥栽培が必要。
- ・分けつ期の追肥が茎数確保に有効。
- ・出穂期以降の追肥（実肥）も効果的。

【管理】

- ・収量向上をはかるためにも、主食用米と同様の栽培管理が必要。
- ・イネ縞葉枯れ病やカメムシ類等の防除が行われない場合は、病虫害や雑草の発生源になり収量減や周囲のほ場に被害を及ぼす恐れがあるため、適切な防除を実施する。
- ・稲こじ病に弱いため、薬剤防除を行う。出穂期 15 日前を基準に銅剤を散布すると防除効果がある。

【育苗】

飼料用イネ専用品種は食用品種に比べ、発芽・出芽期の水温の影響を受けやすく、低い浸種温度（10℃以下）の場合、出芽不良や苗長のバラツキ等の発生の一因となり、水温が高いと吸水は早くなるが出芽のむらを生じやすくなるので、温度管理には十分注意を払う。

・5月上旬移植までは20～24日間、5月中旬以降の移植では15～18日間を基準に播種を行う。

- 浸種・催芽
 - ・浸種水温 10～15℃（低水温は出芽不良を起こしやすい）
 - ・積算温度 60～80℃（主食品種より短い）
 - ・催芽は、28～30℃でハトムネ状態にする。
- 播種
 - ・10aあたり3～3.5kg（粒が大きいので、コシヒカリより多い）
 - ・1箱あたり乾籾で140g～190g（催芽籾で172g～234g）
 - ・イネばか苗病の徹底防除のため、テクリードCフロアブルなどにより必ず種子消毒を実施する。
- 播種後の管理
 - ・温度、かん水は主食品種に準ずるが、低水温の灌水に注意する。
 - ・もみ枯れ細菌病が発生しやすい30℃を超える高温を避ける。



【水管理】

- ・移植直後は2～3cmの浅水で活着・分けつを促す。
- ・有効茎を確保したら中干しを行い、その後は間断かん水とする。
- ・かん水は、出穂期後30日以降、用水が早めに止まる場合には直前にためておく。

【収穫】

- ・コンバインへの負担が大きい場合は、走行速度を遅くするか、刈り取り条数を減らすなど、生育状況に合わせて作業する。
- ・収穫適期は、穂首近くに緑色を残した籾が穂全体の10%程度になったころ以降。
- ・立毛乾燥を行い、主食用米との作業調製と乾燥コストの削減を図る。（倒伏・穂発芽・鳥害等に注意する）



【乾燥・調製】

- ・品質を重視しないため温度設定をやや高めにして乾燥効果を上げることも可能。（契約先の品質規格に注意）
- ・保存性を高めるため、玄米水分は15.0%以下にする。
- ・大粒品種のため、籾摺り際にはロール開度を調整する。

【田植え】

・5月中旬（県北）下旬（県南）までに田植を行う。遅れると倒伏が増え収量が低下しやすくなる。

